

校長室の窓

富谷市立明石台小学校
校長室だより NO.8
令和3年12月10日(金)発行

みんなが一緒に やはりいい

宮城県内でも新型コロナ新規感染者0人が続いていた12月1日(水)。感染レベルも1に引き下げられたので、全校児童が体育館に集まり朝会を行いました。校庭に集まることはあっても、体育館にというのは本当に久しぶりで、このまま少しずつ日常が戻っていければと願いながら朝会を行いました。子供たちの様子を見ながら話ができることに喜びを感じ、久しぶりにも関わらず全校児童の大変立派な姿に感動しました。朝会では、次のことを話しました。



体育館に全校が集まったのは、今年度は初めてのことで、昨年3月ぶりなので、1年9カ月ぶりです。とてもうれしいです。でも、まだ近くの人とお話するのは我慢してくださいね。

これから、校長先生が皆さんに問題を出します。答えが分かっても、心の中で止めておいてください。それでは問題を出します。

「さかなが7匹います。3匹もらいました。今、何匹いますか。」 【問】

10匹と考えた人、4匹と考えた人、1匹と考えた人、など様々だと思います。この問題には、「誰が」や「誰から」や「何人が」という言葉がなかったので、どのような受け取り方をするかささま考えられます。「なるほど、そういう考え方もできるね。」と友達の答えを知って、新たな考え方に気付くかもしれません。自分がこう思うから、他の考えは違うというのではなく、自分とは違う友達の考えや思いにも関心をもってほしいのです。どうしてそう思うのかということに興味をもってほしいのです。

別の例を紹介します。

「ライオンが子どものシマウマを追いかけている場面があります。みなさんはどんなことを考えますか。」シマウマの目線で「大変だ。襲われる。」ライオンの目線で「やっとえさにありつける。」絵本と考え「追いかけて楽しいな。」など、自然の厳しさで考えるか、物語として考えるか、想像の世界に置き換えて考えるか、これもとらえ方が人それぞれであるはずで。

友達のさまざまなものの見方や考え方にふれるから学校での勉強は楽しいのです。友達の考えを聞いて、やはり自分はこう思うという場合や友だちの考え方のほうがいいのかも思う場合もあるかもしれません。

今、明石台小学校の各教室では、コの字の隊形をとったり、グループをつくったりといつでも友達と相談しやすい工夫をしています。勉強と違う話をするためではなく、「あれ?」「おや?」と疑問に思ったときに相談しやすかったり、「分からないなあ」と思ったら「教えて?」と聞きやすかったりとしています。まずは自分で考えてみるのが大切だけれど、分からないことにいつまでも悩むよりも、友達とつながって支え合って高め合ってほしい、鍛え合ってほしいという願いがあるからです。



友達と傷つけ合う関係より、支え合う関係の方が自分を高められます。自分も人も大切にしていきましょう。「ものの見方や考え方は一つではない。」のです。

「いのち」について考える



学校だよりでもお伝えしたように、先月4つの学年発表会を行いました。最高学年となる6年生は、テーマを「いのち」とし、詩の群読や「まつり」を表現した演奏、そして躍動する「明石ソーラン」の演技とこれまでの学習の発表を行いました。詩の群読ではグループごとに表現方法を相談し、どんな方法がより心に刻むことができるかを考えていました。その中の一つの詩を紹介します。

ゆずり葉 河合 酔茗

子供たちよ。
これはゆずり葉の木です。

このゆずり葉は

新しい芽が出来ると

入れかわって古い葉が落ちてしまうのです。

こんなに厚い葉

こんなに大きい葉でも

新しい葉が出来ると無造作に落ちる

新しい葉にいのちをゆずって――。

子供たちよ。

お前たちは何をほしがらないでも

すべてのものがお前たちにゆずられるのです。

太陽のめぐるかぎり

ゆずられるものは絶えません。

かがやける大都会も

そっくりお前たちがゆずり受けるのです。

読みきれないほどの書物も

幸福なる子供たちよ。

お前たちの手はまだ小さいけれど――。

世のお父さん、お母さんたちは

何一つもってゆかない。

みんなお前たちにゆずってゆくために

いのちもあるもの、よいもの、美しいものを、

一生懸命に造っています。

今、お前たちは気が付かないけれど

ひとりでのいのちは延びる。

鳥のようにうたい、花のように笑っている間に

気が付いてきます。

そしたら子供たちよ。

もう一度ゆずり葉の木の下に立って

ゆずり葉を見るときが来るでしょう。

災害について考える

7日(火)。5年生と一緒に校外学習で震災遺構である荒浜小学校に行ってきました。東日本大震災において2階まで津波が押し寄せてきた学校です。津波による犠牲を再び出さないため、その校舎を震災遺構として公開することで津波の脅威や教訓を伝えていました。バスの中では遠足気分だった子供たちも、現地では真剣に話を聞いたり、展示物を見たりしていました。

「明石台は高い所にあるので津波の心配はないけれど、自分たちがどこで津波に合うか分からないので、今日見たことを忘れないようにしたい。」「災害はいつ来るかわからないので、自分の命を守る行動をしっかりとれるように訓練していきたい。」など子供たちの新たな思いが見られました。



流される前の様子を真剣に見る子供たち。

不審者対応訓練を行いました

最近、物騒なニュースが増えているのが気になります。不審者が幼稚園に侵入したり、包丁を持った人が子供を襲おうとしたり、火事や地震も多いように感じています。

3日(金)。子供たちの下校後、大和警察署の方をお呼びして、職員で不審者対応訓練を行いました。不審者が入ってきたときにどう対応するかご指導いただきましたが、何より不審者を校舎内に入れないようにすることが大切だと教えていただきました。今後は、子供たちが外で遊んでいるときなど、合図で校舎内に素早く入る訓練を予定しています。また、登下校時にはできるだけ一人にならないように指導しています。ご家庭でも確認お願いいたします。



学校では児童の登校後、昇降口の施錠を行っています。遅れてくる場合や忘れ物等を届けるときなどは、今後もインターホンで職員室に声を掛けていただくようお願いいたします。